



# ミレニアム・センサスについて

総務庁統計局統計調査部国勢統計課長

## 福井 武弘

今年が国勢調査の年です。10月1日を期して、第17回平成12年国勢調査が実施されます。我が国に普段住んでいる人、世帯すべてが調査対象になります。対象人口は約1億2700万人、対象世帯が約4700万世帯と見込まれ、また、調査員が約84万人、指導員が約8万人、これに国、都道府県、市区町村等の関係者を含めると、実に100万人近くの方々が調査に関係する極めて大規模な統計調査です。

今回の調査は、2000年という世紀、ミレニアム（千年紀）の変わり目に実施する調査であり、新たな時代を測る上での基準（ベンチマーク：bench mark）となる人口・世帯構造を明らかにするという極めて重要な役割を持っています。また、歴史的にも意味がある、いわば、ミレニアム・センサスとでも呼べる調査になります。

この機会に、人口センサスの歴史を黎明期から少しながめてみると、5000年前ぐらいに始まります。以下、この歴史をミレニアム（千年紀）ごとに概観すると、今から5「千年紀」前のあたりでは、紀元前3000年以上前の古代バビロニアで国富の把握を目的として最古の土地・人口調査が行われていたようです。また、同じく紀元前3050年頃エジプトでピラミッド建設のために人口調査が行われています。中国においても同時期に、井田（農地）の分配と租税の徴収のために土地調査や人口調査が行われたようです。古来、人口調査は、主に課税や徴兵などのために人口規模を把握するという特定の目的のために行われ、現在の人口セ

ンサスようにすべての人を対象にした調査として実施され、人々の利益のためや基礎統計作成のために使われるものではありませんでした。

また、3「千年紀」前頃においては、紀元前1491年にモーゼらがヘブライ人の人口調査を軍事目的で実施したことや、紀元前1017年に、ヘブライのダビデ王がイスラエル民族についての人口調査を試みますが神罰が下り中止になったことが、旧約聖書に書かれています。なお、この神罰の影響もあり、このあとに続く中世のキリスト教ヨーロッパの暗黒時代においては、人口調査が行われませんでした。また、中世の学者は、国土全体の全国民を一度に把握することは、その規模からして大変なことであり、不可能だと思われていた一面もあるようです。

2「千年紀」前後においては、紀元前435年にローマにおいてセンソール（Censor：人口センサス（Census）の語源）と呼ばれる徴税官による初めての人口調査が実施されました。また、韓国でも、三韓時代のこの時期に人口調査が実施されています。我が国では、3、4世紀の崇神天皇の時代に人口調査を実施した記述が日本書紀にあります。その後、大化の改新(645年)の頃、体系的回帰的な人口調査が行われていたようです。

近代的な人口センサスが初めて行われるようになったのは、現「千年紀」（1000年代）の後半、今からわずか200年ぐらい前のことです。近代的な人口センサスの基本条件とは、定時回帰的に、一斉に、近代的な統計組織でもって、特定の対象でなく、すべての人口を調査することです。1790年、

近代民主主義国家を建設途上のアメリカ合衆国において、各州ごとの下院議員の定数や交付税配分のための算定基準としての人口把握を目的として、世界で初めて、近代的人口センサスが実施されました。その後、1800年代には、イギリス、カナダなど西洋諸国で次々に実施されます。我が国の場合、明治12年（1879年）に、明治政府において、杉亨二が最初の近代人口センサスの試験調査を甲斐国で実施しましたが、その後、戦争等で準備が中断し、初めての国勢調査が実施されたのは、大正9年(1920年)のことです。

言うまでもなく、国勢調査は、我が国の人口、世帯、産業構造等の実態を、国レベルはもとより小地域レベルにおいて明らかにし、国や地方公共団体における各種行政施策の基礎資料を得ることを目的として実施する国の最も基本的な統計調査です。調査結果は、地方自治法に基づく地方議会の議員定数、委員会の数、市の設置などの基準と

なる人口として利用されるほか、地方交付税法に基づく20兆円を超える交付金の配分基準に使用されるなど、政治・行政の基礎になる数多くの法定人口を提供します。また、都市計画、地域開発、住宅政策、労働政策、教育施策、社会福祉施策、環境・防災対策など、国はもとより地方公共団体におけるありとあらゆる行政のための必要不可欠な統計になっています。

今回の国勢調査は、国際連合が勧告する2000年ラウンドに実施される人口・住宅センサスの一環として実施されるもので、60億人を超える2000年基準の世界全体の人口構造を把握するという国際的な意義を持っています。従って、調査の円滑な実施と調査結果の正確性を確保することが一番の課題です。

2000年における重要な大イベントであるミレニアム・センサスが、成功するように、皆様の御支援、御協力をどうかよろしく願いいたします。